

# 環境学習みえ

2021年6月／三重県環境学習情報センター(四日市市桜町3684-11)年4回発行

表紙の人／代表:羽場典子さん(中)、山本たか代さん(左)、岳野直美さん(右) (いなべフェアトレードタウン) 2021 No.85

夏

フェアトレードタウン





# 「フェアトレードでまちづくり」

みなさんは普段、どんなものを買いますか。

私たち消費者は、日々、買い物をして食べものや暮らしに必要なもの、サービスを手に入れています。

最近、「エシカル消費」という言葉をよく見かけます。

毎日の私たちの消費が、世界の未来を変えるとしたら？

エシカルな消費とは、どんなものを選び、どんなものを買うことなのでしょうか。

今回は、フェアトレードを通じてまちづくりを行っている

市民団体「いなべフェアトレードタウン」の活動を紹介します。



▲いなべ市役所の食堂で飲めるフェアトレードのコーヒー



▲フェアトレードの食材を使用した地域コラボ商品

「エシカル消費」でどんなことが応援できるでしょうか。

具体例の一部を見てみましょう。

認証ラベルのある商品を選ぶ\*



世界の未来を変えるのは、あなたの日々の消費です。

\*認証機関は他にも多数あり、これらはその一例です。  
生物多様性民間参加ガイドライン 第2版 (平成29年12月8日 環境省公表) [http://www.env.go.jp/nature/biodic/gi\\_participation/download.html](http://www.env.go.jp/nature/biodic/gi_participation/download.html)

出典: 消費者庁リーフレット「エシカル消費ってなあに?」

## 「エシカル消費」とは?

※エシカル(ethical)＝倫理的な・道徳的な

エシカル消費\*とは、地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動です。私たち一人一人が、社会的課題に気づき、日々の買物を通して、その課題の解決のために、自分で何ができるのか考えてみることに、これが、エシカル消費の第一歩です。私たちが商品・サービスを選択する際に、「安心・安全」、「品質」、「価格」だけでなく「エシカル消費」という基準も大切です。

引用: 消費者庁パンフレット「みんなの未来にエシカル消費」

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標(SDGs)の12番目は「つくる責任 つかう責任」  
2015年9月の国連総会で決められた国際的な17の目標のなかにも、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的な社会などと併せて、「持続可能な生産・消費形態の確保」が掲げられています。

引用: 消費者庁 エシカル消費特設サイト

<https://www.ethical.caa.go.jp/>

もっと知りたい人はこちら!

## いなべ FAIR TRADE TOWN が考える エシカル消費とは

「いなべフェアトレードタウン」は、2018年からフェアトレード推進活動を行っている市民団体です。

2020年度のいなべ市内のフェアトレードタウンマップの作成、専用エコバッグを使ったスタンプラリーイベント(協力店舗にて商品購入ごとにスタンプが押せる)は、いなべを知っていただける一つのきっかけであり、さらにはエシカル消費を促すことにつながると考えております。普段の買い物も「いつ、どこで、だれが、どうやって」作られたのか気にしてみると、新たな地域の魅力や面白い発見があるかもしれません。

私たちは、フェアトレード商品や地産地消を通じて商店街の方々とコミュニケーションをとりながら地域活性化の一助となるべく活動しています



【お話を伺った人】



「いなべフェアトレードタウン」

はば のりこ 代表 羽場 典子さん



「いなべフェアトレードタウン」の会員は現在4名です。それぞれが得意なことをいかして活動を行っています。

市民団体「いなべフェアトレードタウン」  
問い合わせ先▶ [inabefairtradetown@gmail.com](mailto:inabefairtradetown@gmail.com)  
WEB▶ <https://inabefairtradetown.wordpress.com/>  
Facebook▶ <https://www.facebook.com/323747868230550/>



WEBサイトから、活動の情報などをご覧いただけます。



## フェアトレードとは？

開発途上国から原材料や製品を不当に安く買うのではなく、適正な価格で継続的に買い取る取引のことをフェアトレードといいます。

## 私たちがフェアトレード商品を購入することによって

適正な価格で継続的に購入されると、生産者が安定した生活を送れるようになります。



子どもたちが働かずにすみ 農薬の大量使用がなくなり  
学校へいけるようになる 産地の環境や生産者の健康が守られる

## どんなものがフェアトレードの商品なの？

商品がフェアトレードの基準に見合った方法で作られていることを保証するラベルがあります。その一つに、国際フェアトレード認証があります。生産者への適正な価格の支払い、労働環境保護、農業使用規制、等の国際フェアトレード基準をクリアした製品には認証ラベルがついています。国際フェアトレード認証の対象商品は、コーヒー、カカオ、コットン、紅茶、バナナ、花、スポーツボールなど多岐にわたります。



国際フェアトレード  
認証ラベル

## フェアトレードタウンとは？

フェアトレードタウンは、市民、行政、企業などが一体となってフェアトレードを広げる運動を行っているまちのことです。いま世界中で広がりをみせています。日本では、一般社団法人日本フェアトレード・フォーラムが定めた、6つの基準を満たすとフェアトレードタウンに認定されます。

- 1 推進組織の設立と支持層の拡大
- 2 運動の展開と市民の啓発
- 3 地域社会への浸透
- 4 地域活性化への貢献
- 5 地域の商業施設によるフェアトレード製品の幅広い提供
- 6 自治体によるフェアトレードの支持と普及

日本では、熊本市（熊本県）、名古屋市（愛知県）、逗子市（神奈川県）、浜松市（静岡県）、札幌市（北海道）、いなべ市（三重県）が認定されています。認定を目指して活動を行っている団体が日本各地にあります。



2019年9月に、日本で6番目にいなべ市がフェアトレードタウンに認定されました。  
(写真中央左:いなべ市長 中央右:羽場さん)

## フェアトレードタウンを 目指すきっかけ

フェアトレードを通じて、まちを元気にする活動を続ける「いなべフェアトレードタウン」代表の羽場典子さんにお話を伺いました。羽場さんはいなべ市がフェアトレードタウンに認定されるためにも尽力しました。

羽場さんは、旅行でミャンマーを訪れたことがきっかけで、麻薬の代替作物として、そばを栽培することで現地の生産者が自立できるように支援するNPOに、2012年から所属して活動を行っていました。活動を続ける中で、まちぐるみでフェアトレードを普及するフェアトレードタウン運動に出会います。勉強会やイベントに参加して、その魅力を知ろうちに「いなべ市もフェア

トレードタウンになったらいいな」と思うようになっていきました。そして偶然、いなべ市長に出会ったことで大きな転機が訪れます。フェアトレードタウンについて思いを伝えると市長の賛同を得ることができたのです。そこから友人らとともに、2018年に団体を設立し、行政と協働して認定に向けて動き出すことになりました。自分の住む地域では、高齢化が進み閉店するお店が増えて、まちに活気がなくなっていくことを心配していた羽場さんは、「自分たちが活動することで、お店やまちの活性化につながればいいな」という思いがありました。

## いなべフェアトレードタウンの誕生

フェアトレードタウンに認定されるためには、そのまちに住む人たちにフェア

トレードについて広く知ってもらうことが必要です。イベントの開催や開催を通して、フェアトレード商品の販売や啓発をしました。またフェアトレードチョコレート料理教室や、学校で授業を行い、子どもたちにフェアトレードについて伝える活動を行いました。認定には、羽場さんたちの活動が認められたことはもちろんのこと、活動を進める中で、他の団体や企業と協力・連携できたことや、市議会議員の方々に「いなべ市のためになることだから」と理解を得られたことが力となりました。また市内に10年以上前からフェアトレードの商品を取り扱うお店があったことなどもあり、団体発足から1年半でタウン認定されることになったのです。



(上)いなべ総合学園高等学校での授業  
(下)放課後子ども教室での料理教室



▲桐林館で主催したイベントで、フェアトレードのコーヒーや雑貨などを、販売しました。



## いなべ市の取り組み

いなべ市は2020年に「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。そこで、SDGsを推進する取り組みのひとつとして、学校給食を題材にフェアトレードについて学ぶ、小・中学生向けの動画を制作しました。市の職員が学校などで動画を使用して授業を行い、身近なことが持続可能な社会づくりにつながることを伝えています。

今後は、市内の保育園などへの、フェアトレード食材の導入を目指していこうとしています。



羽場さんも出演中!

「いなべフェアトレードタウン」の活動や、いなべ市内のフェアトレード取扱店についても紹介しています。



いなべの新たな市民活躍の拠点「にぎわいの森」から発信するSDGsを紹介している動画も見ることができます。

▲いなべ市ホームページ「SDGs動画」

## 「いなべフェアトレードタウン」との関わり

いなべ市は、フェアトレードの普及や、まちの活性化のため、市民団体「いなべフェアトレードタウン」の活動を支持しています。

市として、タウン認定までは協働して活動を行っていましたが、活動が軌道に乗った現在は、広報の協力などのサポート的な役割を担っています。

中世古さん「フェアトレードの活動は、団体やお店、市民のみなさんが主役です。今後も市として見守りながら協力していきます」

いなべ市商工観光課

なかせこ まお  
中世古 真央さん



## フェアトレード × 地域

羽場さんたちの活動や、フェアトレード

への理解が広まったことで、いなべ市内にはフェアトレードの商品を販売するお店が増えてきています。お店によつては、フェアトレードの食材を使用したお菓子などの地域「コラボ商品」を販売しています。

羽場さん「フェアトレードが発展途上国のためだけでなく、地域のお店の活性化にもつながると実感して欲しい」と考えました。

初めての「コラボ商品は、老舗の和菓子屋さんの「和さぶれ」です。フェアトレードのチョコレートを\_using\_しています。これをきっかけに、各店の特色を生かした「コラボ商品」が次々と生まれています。



フェアトレードの塩を使用したラスクやせんべいなど。せんべいは、いなべの野菜を使用しています。



商品説明のポスターや、お店の情報をまとめたフェアトレードタウンマップを作成して、商品やお店の魅力を広く伝える工夫をしています。



いなべフェアトレードタウンの  
特徴 ①

## エコバッグでスタンプラリー

いなべフェアトレードタウンの  
特徴 ②

フェアトレード取扱店をめぐって、専用のエコバッグにスタンプを押すスタンプラリーを、今年の春に開催しました。フェアトレード以外の商品の購入や飲食もスタンプの対象となっているのがポイントで、地域のお店と世界の生産者のどちらにも応援する取り組みです。

今回の取り組みが好評のうちにとつて、次に繋がる大きな自信になりました。今後は新しいお店にも声をかけて、さらにフェアトレードの輪を広げていきたいと考えています。



スタンプラリーに使用したエコバッグは、フェアトレード認定、オーガニックコットンを使用しています。

## フェアトレードで地域の店と市民をつなぐ

羽場さんは、顔なじみのお店で買い物することで得られる安心感やコミュニケーションは、とても大事だと感じています。地域の小さな店が存続していくためには、そのまちに住む人が利用することが必要です。

そこで、年に一度決められた日は、地域の小さな商店で買い物しようというアメリカの「スモール・ビジネスサタデー」という取り組みをモデルに、いなべ市がフェアトレードを通じて地域のお店と市民をつなぐまちになっていくように、活動していきたいと考えています。

の場を作ろうとしています。羽場さんは「少ない人数で活動しているので、今後も無理せず楽しみながら続けたいです」と話してくれました。

私たちの買い物で世界も地域も変える



「エシカル消費」は、その商品に携わるすべての人を思いやることと言えます。今回特集した「いなべフェアトレードタウン」は、誰かを思いやる優しさにあふれたまちです。そんな魅力あふれる場所へ、ぜひ足を運んでみてください。

私たち消費者が、どのお店で、どのような商品を選んで買い物するかによって、世界や地域が変わるというのは決して大げさなことではありません。みなさんもフェアトレードの商品や、自分の住むまちのお店を意識して買い物をしてみませんか？

写真提供 いなべフェアトレードタウン、いなべ市



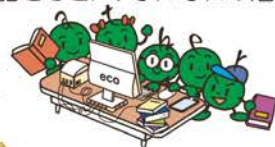
# トピックス みえ

## 2020年度子どもエコクラブ「全国エコ活コンクール」で【日本環境協会賞】受賞!!!

「全国エコ活コンクール」は、全国の子どもエコクラブが作成した壁新聞・絵日記をもとに、それぞれの活動について全国事務局が審査し、都道府県代表を決定します。

2020年度は、壁新聞では三重県から4クラブ9作品の応募がありました。その中の、松阪市 松名瀬(まつなせ)干潟での活動をまとめた、三重中学校・高等学校 科学技術部が三重県代表に選ばれ、日本環境協会賞も受賞しました。

例年、東京で開催される全国フェスティバルの中で表彰式を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今回、YouTubeのライブ配信による初のオンライン表彰式が執り行われました。



受賞作品

三重中学校・高等学校  
科学技術部の活動



おめでとうございます!

三重県の壁新聞応募作品は三重県環境学習情報センターで展示しています。

◀オンラインで活動発表を行ったり全国の仲間と交流を楽しんだりしました。



子どもエコクラブエコ活コンクール2020 表彰式

当日の様子はこちらから視聴できます。ぜひご覧ください!

## 2020年度子どもエコクラブ「クラブ活動フォトコンテスト」で【ケニス賞】受賞!!!

全国の子どもエコクラブからウェブサイトを通じて寄せられた活動レポートの写真で、元気なクラブの活動の様子をアピールする「クラブ活動フォトコンテスト」!

459の応募作品の中から、魚と子どもKidsクラブ『ウェルカムよっかいち 早朝清掃2021』が、2020年度ケニス賞(得票2位の作品)を受賞しました!



海岸清掃活動での1枚です! おめでとうございます!

子どもエコクラブとは、幼児(3歳)から高校生までなら誰でも結成・参加できる環境活動のクラブです。

詳しくは <http://www.j-ecoclub.jp/>

## 「みえ生物多様性推進プラン(第3期)概要版」ができました!

「みえ生物多様性推進プラン」は三重県の生物多様性の保全に関する基本計画で、これまでの取組状況やSDGsなど生物多様性の保全に対する社会的な関心の高まりを踏まえ、2020年3月に第3期が策定されました。



概要版では、生物多様性がわたしたちの暮らしを支えていることや、三重県の生物多様性の現状について、事例をもとに紹介しています。

また、生物多様性を保全するために、生物の生息する環境である生態系とそれをとりまく生態系ネットワークを形成していくことの重要性についても、わかりやすくイラスト等を使って伝えています。

「みえ生物多様性推進プラン(第3期)概要版」は、環境学習情報センターでも配架中です! 三重県ホームページでもご覧いただけます。どうぞご覧ください!

<https://www.pref.mie.lg.jp/MIDORI/HP/m0118500169.htm>



みえ生物多様性推進プラン(第3期)は三重県のホームページに掲載しています。概要版には掲載しきれなかった三重県の施策や県民との協働取組との事例、コラムなどを紹介しています!

お問合せ 三重県農林水産部みどり共生推進課 Tel: 059-224-2578 e-mail: midori@pref.mie.lg.jp



今回、社会見学の 일환としてセンターに来館した桑名市の小学5年生のみなさんが、「食品ロスをへらそう」の講座を受講しました。この講座は、スーパーマーケットや家庭から廃棄されている食品の現状を知り、なぜ大量の食品が捨てられるのか、食品廃棄物を減らすためにはどうしたらよいか、を学びあいます。

## 食品ロスをへらそう

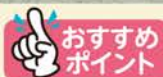
「食品ロス」とは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。講座の最初に、家庭から食べ物が大量に捨てられてしまう現状を知ったみなさんは「もったいない!」と、とても驚いたようでした。

そこで、実際にごみとして捨てられていた野菜や魚、お菓子などの写真を見ながら、なぜ食べ物が捨てられてしまうのか理由について考えてもらいました。この講座では、一人一人が付箋に自分の意見を書き出して、グループごとにまとめて発表します。

色々な質問に対して、思いついたことをどんどん書いていきます。



こんなにたくさんの意見ができました。



**おすすめポイント** 付箋に書き出すことで色々な考え方があがることに気が付きます



盛り上がります!!

付箋の意見をもとにグループ全員で話し合い!

最後に、食品ロスを減らすために自分にできることを考えて、まとめたことをグループごとに発表してもらいました。「食べ残しをしない」「期限を確認する」「計画的に買い物をする」などすぐに出来ることや、家族と取り組めることなどたくさん考えてくれました。発表する時に、自分たちの意見を自信を持って発言している姿がとても印象的でした。



施設見学について

展示ホールには、「地球温暖化」「水環境」「ごみ」「森林」「生物多様性」「四日市公害」の6つのコーナーがあり、ワークシートの答えを探しながら見学をしました。

## 食品ロスをへらそう

対象 / 小学5年生～大人

**人数** 10～40名程度 **所要時間** 60～90分 ※中学生は50分実施可

- 内容**
- ①家庭から食べ物が大量に廃棄されている現状を知り、なぜ捨てられるのかを考えます。
  - ②グループごとにスーパー、コンビニ、飲食店などに分かれ、どのような食品が廃棄されているのかを話し合います。
  - ③食品が廃棄物にされる原因や、食品廃棄物を減らすために何が出来るのかについて、付箋を使い話し合います。
  - ④意見交換を行い、「自分」にできること見出します。

教科との連携 社会、家庭

SDGs



## 社会見学利用について

- 対象** 小学生～高校生  
**人数** 100名程度まで  
※施設見学のみ場合は40名程度まで  
 ※人数が多い場合はご相談ください  
**料金** 無料  
**申込** 原則1ヶ月前までに  
 お申し込みください。  
※10月～11月は社会見学の多い時期です。  
 早めのお申し込みをお勧めします。

**内容**

体験学習 + 施設見学(ワークシート) + 昼食OK

※お部屋で食事することができます

環境学習プログラムについて、詳しくはこちらをご覧ください







## 企画展示

開館時間内 観覧無料

### 報告 「マイクロプラスチック絵画展」 2・3月 白塚の浜を愛する会

伊勢湾内に広がる自然豊かな砂浜・白塚海岸。ここには貴重な生態系が残されており、絶滅が危惧されている生き物が生息することでも知られています。白塚の浜を愛する会は、この素敵な浜を未来へ受け渡したいとの思いから、活動されています。

近年、海岸にはたくさんのプラスチックごみが流され、捨てられています。展示では、拾ったマイクロプラスチックで作成した様々なアート作品が飾られました。この作品展示を通し、マイクロプラスチックの問題について考える機会となりました。



### 報告 「『Picture Book for SDGs』 ～SDGsの大切さを伝える絵本展」 4・5月 一般社団法人 SDGs コミュニティ

SDGsは、貧困、人権、環境などの問題の解決や、持続可能な社会への変革を実現する2030年までの国連による17の目標です。これは今を生きるすべての人、未来を生きるすべての人の、命や権利が大切にされ、健康で安心、安全に暮らせるようになるためのものです。

ここで謳われている“だれ一人取り残さない世界”をつくるために、気づき、学びあい、行動につながることを願い、絵本がつくられました。この絵本展が大切にしていることは、Imagination(想像)です。眺めながら、SDGsや未来のことを想像しました。



### 開催中 「三重県地球温暖化防止啓発 ポスターコンクール 入賞作品展」 6・7月

三重県環境学習情報センター

令和2年度の入賞作品の展示を行っています。  
小学生・中学生の皆さんの力作をぜひご覧ください!



令和2年度  
小学生の部 最優秀賞



令和2年度  
中学生の部 最優秀賞

### 予告 「いなべ市『SDGs未来都市』と フェアトレードタウン」 8・9月 いなべ市企画部政策課

いなべ市は、フェアトレードタウンに認定されており、2020年に「SDGs 未来都市」と「自治体 SDGs モデル事業」にも選定されました。その先進的な取組をご紹介します。



## 環境学習情報センター展示ホールにて

### 「環境パネル展」を開催します!

展示期間：8月1日(日)～8月31日(火)

#### 「考えてみようエコライフ」

三重県地球温暖化対策課

環境に優しい買い物って? 自分でできることを考えてみましょう。

#### 「下水道のしくみ」

三重県下水道経営課・

公益財団法人三重県下水道公社

自分の使った水がどのように処理されるのか、詳しく説明します。



#### 「なぜ海岸にごみがある? ～海岸漂着物問題啓発 パネル展示～」

三重県大気・水環境課

海岸にごみがあるのはなぜだろう? 自分とのかかわりを考えてみませんか?

#### 「食品ロスの削減」

三重県廃棄物・リサイクル課

食べ物が捨てられているなんて! 食品ロスの削減について紹介します。

#### 「燃料電池自動車MIRAI」

三重県ものづくり産業振興課

燃料電池車MIRAIって、どんな車だろう? パネルでMIRAIの魅力を紹介いたします。

#### 「生きものクイズ」

三重県みどり共生推進課

自然や生きものについてのクイズに挑戦してみましょう!



※写真は、昨年秋に行われた「環境パネル展」の様子です。

## 三重県環境学習情報センター

### ホームページ リニューアル予定のお知らせ

ホームページをより使いやすく快適にご利用いただけるように、この度、リニューアルを予定しております。今回のリニューアルでは、より見やすく、情報が探しやすい構成やデザインになっています。主催講座への申し込みも、ホームページの専用フォームからできるようにする予定です。またスマホなどのモバイルにも対応します。



これからも引き続き、みなさまのお役に立つ情報のご提供や、内容の充実に努めてまいります。ぜひお楽しみに!

三重県環境学習情報センター 検索

<https://www.eco-mie.com>





# 講座情報

詳細・申込方法については、ホームページ・チラシをご覧ください

PICK UP

開館時間・休館日のお知らせ

開館時間 午前9時～午後4時

休館日 毎週月・土曜日(祝日を除く)、  
12月29日～1月3日

今後の新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、講座の延期、または中止となる場合があります。予めご了承ください。

環境学習地域リーダー養成講座

## 環境基礎講座2021

～フィールドツアー編～

「環境取組の現場を見に行こう」

- 第1回 8月21日(土)  
気候危機「地域資源で再生可能エネルギーをつくる」
- 第2回 9月20日(月・祝)  
生物多様性「あずきと人をつなぐ森に出会う」
- 第3回 10月9日(土)  
資源循環「羽毛をなんども使う」

会場	第1回 株式会社マツザキ 馬野川小水力発電所(伊賀市) 第2回 井村屋株式会社 アズキキングの森(津市) 第3回 河田フェザー株式会社 明和工場(多気郡明和町)
内容	環境保全・環境問題解決に取り組まれている現場を訪れるフィールドツアーです。 ※今年の「環境基礎講座2021」を受講した方が優先となります。
締切	第1回 7月31日(土) 第2回 8月31日(火) 第3回 9月21日(火)

## 夏休みこども環境講座

対象：小・中学生(講座によって学年制限・材料費あり)

- 7月25日(日)  
「白塚海岸に散らばるマイクロプラスチック、あなたはどうしますか？」
- 7月30日(金)  
「下水道ってなあに？」
- 8月1日(日)  
「三重の木箸づくり」
- 8月8日(日)  
「風力発電工作教室」
- 8月9日(月・振休)  
「牛乳パックから作ろう! かまくらんぷ」

会場	三重県環境学習情報センター(四日市市)	締切	7月6日(火)
----	---------------------	----	---------

※詳しくはホームページをご覧ください

環境学習地域リーダー養成講座

## 森林教育指導者養成講座

《技術編》

8月1日(日)・8日(日) ※全2回

会場	藤原岳自然科学館(いなべ市)	締切	7月20日(火) 先着順
内容	自然観察などを通じ、自然と人をつなぐための手法である「インタープリテーション」を学びます。講義のほか、野外観察やインタープリテーションの演習を行います。申込先:みえ森づくりサポートセンター		

環境講座

## 「自然観察会～自然観察の森を探検しよう～」

- ② 7月24日(土) 10:00～12:00
- ③ 11月20日(土) 10:00～12:00

会場	自然観察の森(津市)	締切	②6月29日(火) ③10月26日(火)
内容	津市リサイクルセンター内にある自然観察の森を歩いて、自然観察をします。この時期の花や昆虫を探したり、野鳥の声に耳を傾けたりして、身近な自然を楽しみます。		

## 「あそべるたいむ」

毎日曜日・祝日 開館時間内(最終受付15:00)

会場	三重県環境学習情報センター(四日市市)	締切	事前申し込み不要 当日受付 無料
内容	自然のものを使った簡単な工作ができます。何ができるかは、当日のお楽しみ!		

環境講座

## 三重県民の森 自然観察会

原則、毎月第2土曜日

会場	三重県民の森(菟野町) ※ふれあいの館前集合	締切	三重県民の森のホームページで ご確認ください。
内容	三重県民の森の遊歩道を歩いて、その時期に観られるいろいろなものを観察します。三重県民の森ホームページで確認後、三重県民の森に申し込んでください。		

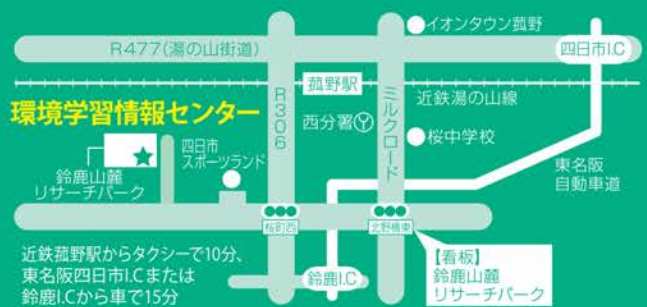
「夏のエコフェア2021」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

※「先着順」以外はすべて抽選となります。各講座の詳細につきましては、お問い合わせください。

## 三重県環境学習情報センター 入館無料

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11

Tel	(059) 329-2000
Fax	(059) 329-2909
Mail	info@eco-mie.com
HP	https://www.eco-mie.com/
休館日	毎週月・土曜日(祝日を除く)、 年末年始(12月29日～1月3日)
開館時間	午前9時～午後4時



講座予定